

表1 「ベッドまわりでの転倒」への対策表

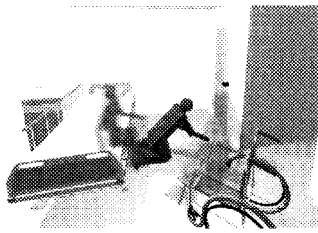
	タイプ A-I	タイプ A-II	タイプ B-I	タイプ B-II	タイプ C
患者像	認知・理解に問題なし (自身の動作能力を理解している/適切にナースへの介助依頼ができる)		認知・理解に問題あり (自身の動作能力を理解していない/適切にナースへの介助依頼ができない)		
患者像	移動動作、障害あつての自立 (見守りなし) (障害には、薬剤や内臓疾患の影響によるふらつき、筋力低下なども含む)	移動動作見守り、または要介助	見守りながら移動支援を要する	移動動作要介助 (動作の制止を含む)	移動動作要介助 (動作の制止を含む)
環境設定の目標	移動の自立を支援する環境を設定する	動作能力に応じた介助を得ながら、移動の安全性を確保する環境を設定する	患者がベッドから離れる時に Ns が察知する環境を設定する	患者がベッド上から起きあがる時に Ns が察知する環境を設定する	患者がベッド上から起きあがりやすいように、Ns が察知する環境を設定する
発生予防	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) ・車椅子・歩行器・杖・点滴スタンドなど ■ 移動経路の確保 ■ 自立支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ ■ 低床ベッド ■ 押しやすい位置・形状の Ns コール 				
傷害予防	■ (*ヒッププロテクタ)	■ (*ヒッププロテクタ)	■ 自立支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ	■ 介助支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ	■ 自立および介助支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ
<基本設定>					
発生予防	患者の状態に適したベッド配置	床材	照明	騒音	
傷害予防	適切なスペースとしつらえの確保	適度な摩擦係数 適度な弾力性	周辺環境が視認可能な夜間照明	静かやすく、歩みやすい	

タイプB：認知・理解力に問題がある。自身の動作能力を理解しておらず、適切に看護師に介助依頼ができない。

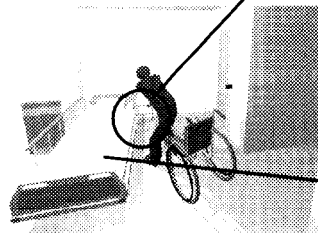
	タイプ B-I	タイプ B-II
患者像	認知・理解に問題あり (自身の動作能力を理解していない/適切にナースへの介助依頼できない)	
患者像	見守りながら移動支援を要する	移動動作要介助 (動作の制止を含む)
環境設定	患者がベッドから離れる時に Ns が察知する環境を設定する	患者がベッド上から起きあがる時に Ns が察知する環境を設定する
発生予防	<ul style="list-style-type: none"> ■ 杖・点滴スタンドなど ■ 自立支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ ■ 低床ベッド ■ 床敷きセンサー ■ ベッド配置 Ns ステーションまでの距離 	
傷害予防	■ 自立支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ	■ 介助支援 (端座位支援/立ち上がり支援/立位保持支援/移乗支援) 端座位保持支援手すり 立ち上がり支援手すり 立位保持支援手すり ベッドと車いすの適切な高さ

移動や姿勢保持、介助を支援する手すりをベッドサイドに設ける

車いすからベッドに移乗する際の転倒事例 B-I



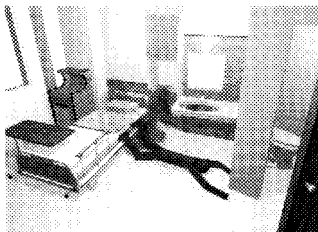
状況
ベッドに戻る際、掴まるところがなくベッド柵も降りていたため、シーツに手をつき戻ろうとして前のめりにベッドからずり落ちた。



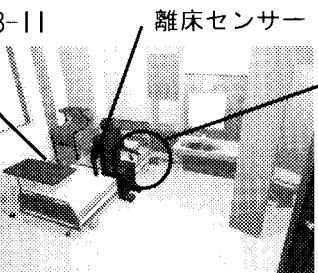
改善案
移乗支援のための手すり（介助バー）を設ける。ベッドと車いす座面を同じ高さとする。

ベッドマット上面
H:420mm
(車椅子座面と同じ高さ)

座位保持ができない患者の転倒事例 B-II



状況
麻痺のある患者。健側に座位保持のための手すりがなかったため、麻痺側に前のめりに転倒した。

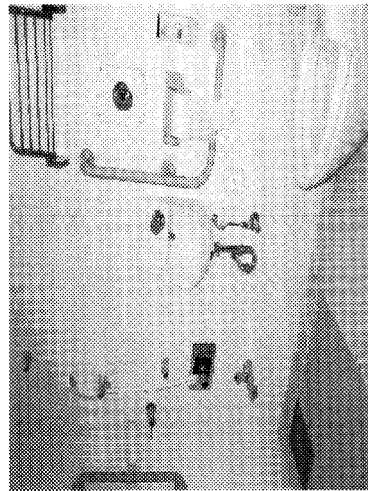
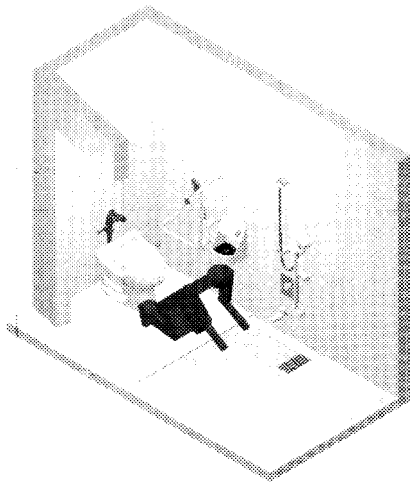


改善案
端座位支援のための手すり（介助バー）などを健側に設ける、など。

表2 「トイレでの転倒」への対策表

	タイプ A-I	タイプ A-II	タイプ A-III	タイプ B-I	タイプ B-II	タイプ B-III		
患者像	認知・理解に問題なし (自身の動作能力を理解している 適切にナースへの介助依頼ができる)			認知・理解に問題あり (自身の動作能力を理解していない 適切にナースへの介助依頼ができない)				
環境設定の目標	便座までの移動および移乗、排泄動作自立	排泄中の座位保持自立 移乗動作要介助	排泄中の座位保持が困難 (介助、見守りをする)	便座までの移動および移乗、排泄動作自立 認知の問題で見守りをする	排泄中の座位保持自立 移乗動作要介助(動作の制止を含む) 排泄動作要介助 認知の問題で見守りをする	排泄中の座位保持が困難(介助、見守りをする) (動作の制止を含む) 認知の問題で見守りをする		
使用トイレの選択	一般トイレ	一般トイレ	車いす兼介助トイレ	一般トイレ	車いす兼介助トイレ	車いす兼介助トイレ		
＜基本設定＞								
発生予防	患者の状態に適したスペース 移動手段に適したスペースの確保 移動動作に適した入り口と便器の位置関係	便器形状 患者の状態に適した形状、取り付け位置 握りやすい太さ、形状、高さ 座位が安定しやすい便座の大きさ	手すり 一般トイレ 車いす兼介助トイレ 便器両側に手すり取り付け L型または可動(水平方向)手すり	床面 段差のない平坦な床面 適切な摩擦係数の床材 濡れても滑りにくい床材	戸 開閉しやすい形状、機能 患者の移動に適する開口幅	ナースコール 緩やかな開閉速度 押しやすい位置・形状	便器周りの設備機器 患者の状態に適した位置、形状(壁面取り付け操作パネル) 片手用ペーパーホルダー(介助者用追加) ダスター	洗浄設備 患者の状態に適した位置、形状(壁面取り付け操作パネル)
傷害予防				適切な弾力性の床材				

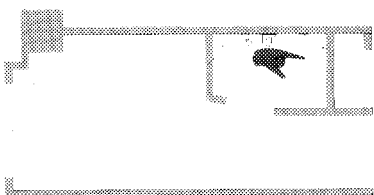
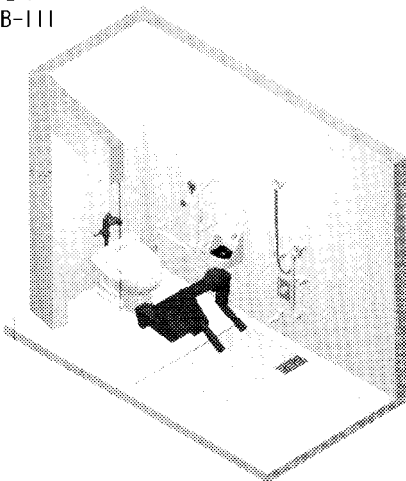
一般トイレでの転倒事例



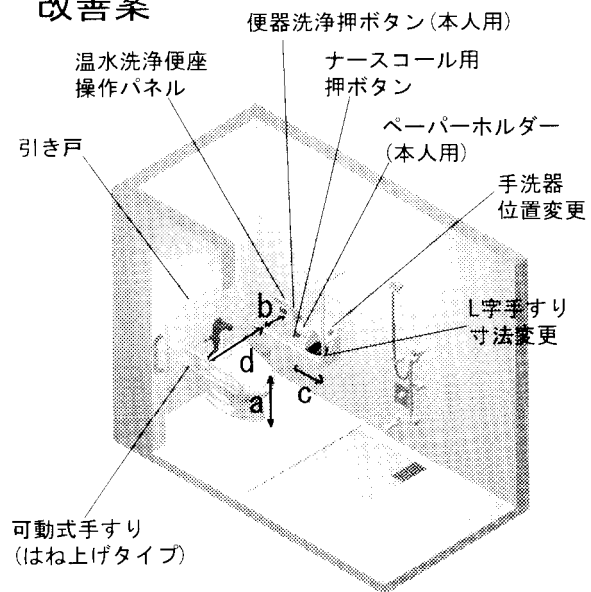
看護師がトイレの中まで誘導し、その後は患者本人に任せ、無理なようならナースコールをするように伝え、その場を離れる。5分後、トイレよりナースコールがあり、ドアを開けてみると下着を下げたまま前方に倒れていた。

一般トイレでの転倒事例 および改善案

現況 B-III



改善案



- a: 便座高さ H=400mm
- b: L字手すり～壁 230mm
- c: 便器先端～縦手すり 250mm
- d: 手すり間隔 700mm

転倒・転落とは

- 「トリガーを引くのは患者」
- 医療スタッフの目の届かないところで
- 物的対策が重要
 - 発生予防対策
 - 障害予防対策

転倒・転落対策のアセスメント

- 転倒・転落リスクのアセスメント
- 転倒・転落対策のアセスメント
 - 認知・理解力の問題
 - 動作能力の問題
 - 治療用具(影響の大きい)の装着の問題

アセスメントに基づく転倒・転落対策

- 適切な環境の設定
 - 基本設定
 - 病棟として備えるべき性能
 - 個別設定
 - 患者のアセスメントによる個別対策
- 対策
 - 発生予防
 - 傷害予防

転倒・転落への対策

- 物的対策の必要性
- 物的対策を導き出すアセスメントは？
 - 転倒・転落に物的環境要因が潜んでいないか。
 - 事例の積み重ね
 - レポートに現場の写真
 - 対策として何が必要なのか。
 - 手持ちのものにこだわらない

